

平成 28 年度「埼玉青少年の意識と行動調査」概要版

この概要版は、「埼玉青少年の意識と行動調査」の結果を取りまとめたものです。調査は、本県における青少年の生活実態、価値観、満足度などを年齢段階ごとに調査し、過去の調査結果との比較分析を行うことにより、現在の青少年の意識と行動の変化を把握するとともに、青少年行政の基本的かつ総合的な施策を推進するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

1 調査設計

- (1) 調査地域 埼玉県全域
- (2) 調査対象 ①平成28年4月1日現在で、満10歳から14歳までの青少年1,200人
②平成28年4月1日現在で、満15歳から30歳までの青少年1,200人
③調査対象①の保護者 1,200人
- (3) 標本抽出方法 住民基本台帳を用いた層化二段無作為抽出法
- (4) 調査方法 郵送配布、調査員による訪問回収
- (5) 調査期間 平成28年7月29日（金）～10月31日（月）
- (6) 調査実施機関 株式会社アストジェイ

2 有効回収数（率）

- (1) 満10歳から14歳までの青少年 724人（60.3%）
- (2) 満15歳から30歳までの青少年 582人（48.5%）
- (3) (1) の保護者 750人（62.5%）

3 回答者の属性

- (1) 満10歳から14歳までの青少年 (%)

	n	小学生			中学生		無回答	
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	
男	312	43.3	56.1	0.6				
女	376	41.8	57.2	1.1				
無回答	36	19.4	16.7	63.9				
計	724	41.3	54.7	4.0				

- (2) 満15歳から30歳までの青少年 (%)

	n	高校生		大学生等 (進学浪人含む)		有職者等 (求職者含む)		働いておらず、求職活動もしていない		無回答	
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	
男	252	12.7	27.0	58.7	0.8	0.8					
女	320	10.0	21.6	64.7	1.3	2.5					
無回答	10	20.0	20.0	20.0	10.0	30.0					
計	582	11.3	23.9	61.3	1.2	2.2					

- (3) (1) の保護者 (%)

	n	親		祖父母		その他		無回答	
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
男	27	96.3	-	3.7	-				
女	714	99.4	0.3	0.3	-				
無回答	9	11.1	-	-	88.9				
計	750	98.3	0.3	0.4	1.1				

※回答は、各質問の回答者数を基数（n）とした百分比（%）で示しています。

少数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%を上下することがあります。

※この調査は5年に1度実施しています。前回調査は平成23年、前々回調査は平成18年に実施しています。

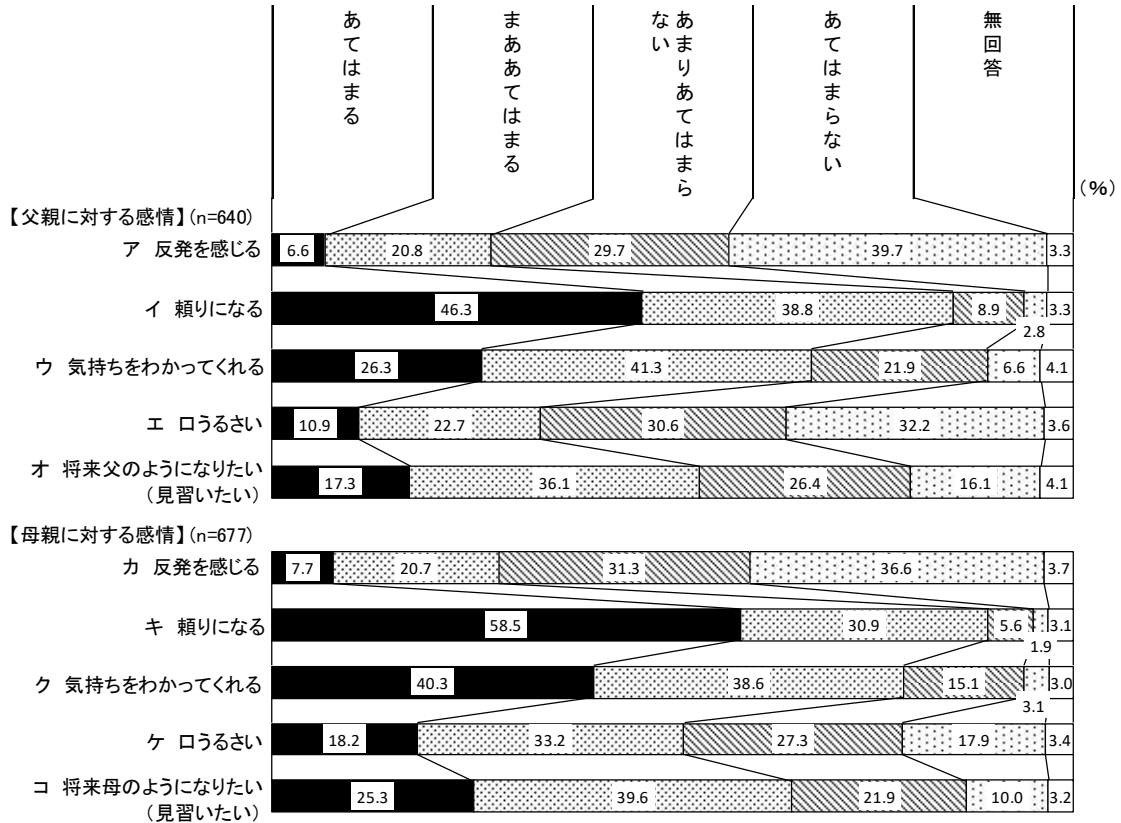
1 青少年が親に抱いている感情【報告書11～13、67～69ページ】

青少年に親に抱いている感情について聞いたところ、どの年代においても「あてはまる」と「まああてはまる」の2つを合わせた「あてはまる」の割合が最も多いのは、『頼りになる』だった。

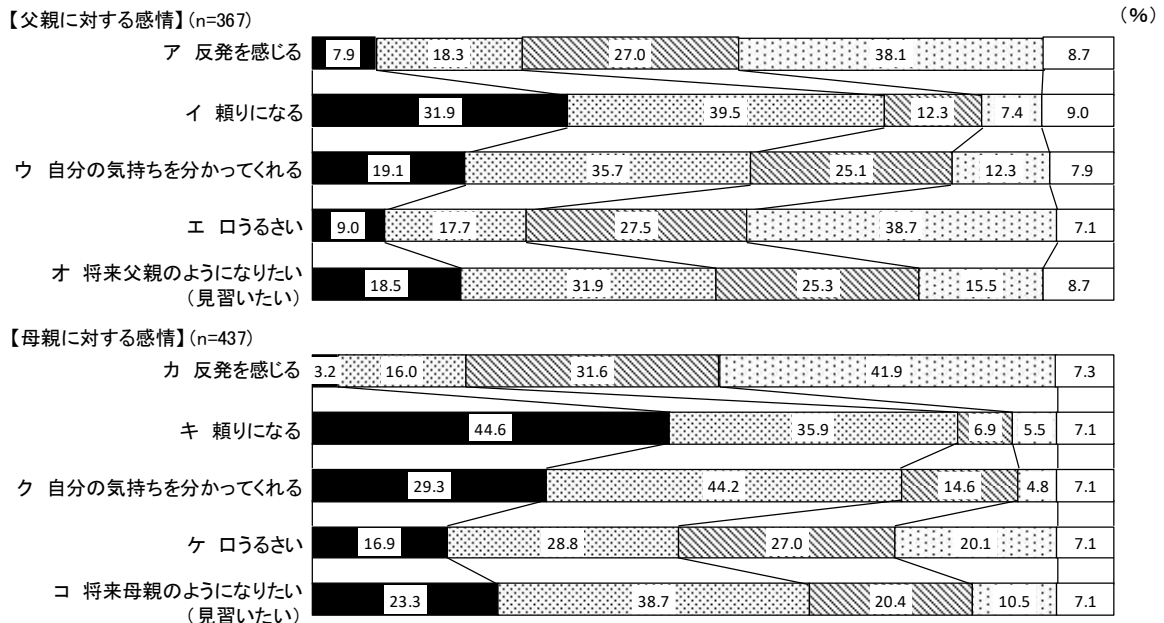
一方、「あてはまる」の割合が最も少ないのは『反発を感じる』だった。

〈 図1 〉 青少年が親に抱いている感情

ア 満10歳から14歳までの青少年



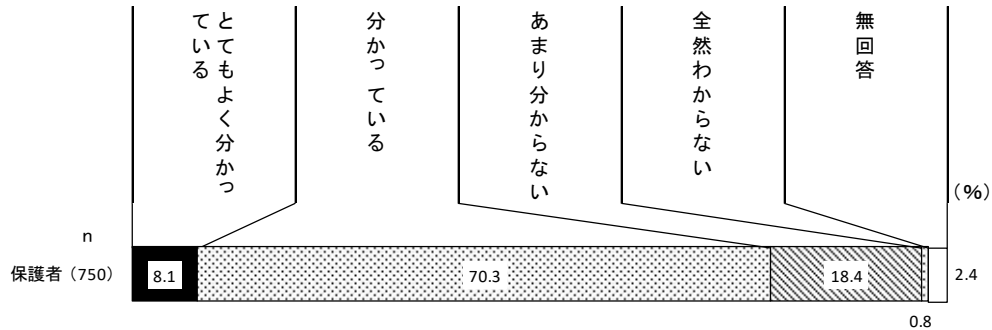
イ 満15歳から30歳までの青少年



2 保護者の子どもの気持ちの理解【報告書133ページ】

保護者に子どもの気持ちをよく分かっているか聞いたところ、「とてもよく分かっている」と「分かっている」を合わせた《分かっている》の割合は8割弱となっている。

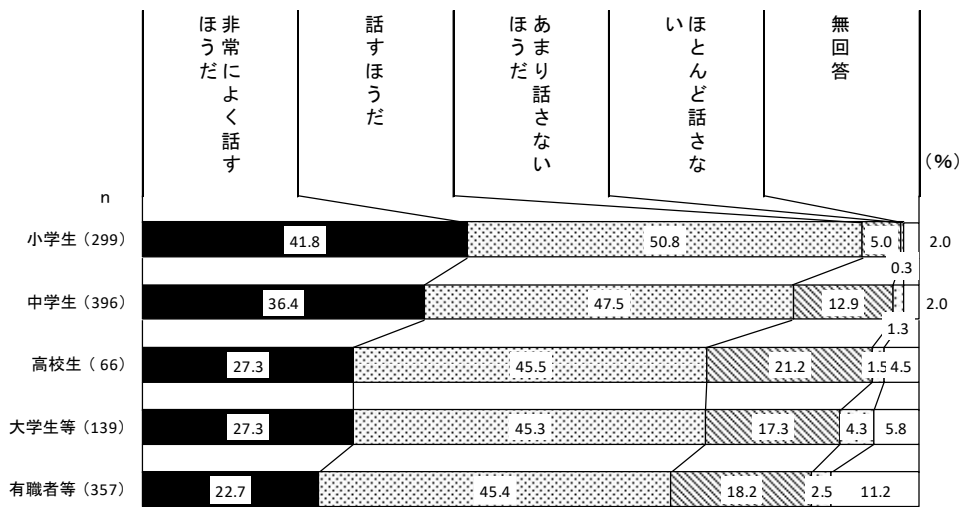
〈図2〉保護者の子どもの気持ちの理解



3 青少年の家庭での会話の頻度【報告書14、70、194ページ】

青少年に家庭での会話の頻度について聞いたところ、年代が上がるにつれて会話の頻度は減少する傾向にある。「非常によく話すほうだ」は小学生が最も多く、「あまり話さないほうだ」は高校生で最も多くなっている。

〈図3〉青少年の家庭での会話の頻度



4 家庭での会話が少ない理由【報告書15、71～72ページ】

青少年に家庭での会話が少ない理由について聞いたところ、どの年代においても「話をするのが面倒くさいから話す気にならない」が最も多く、「特に理由はない」と続いている。

〈図4〉家庭での会話が少ない理由

	満10歳から14歳までの青少年	満15歳から30歳までの青少年
第1位	話をするのが面倒くさいから 23.3%	話をするのが面倒くさいから 16.1%
第2位	特に理由はない 21.9%	特に理由はない 15.3%
第3位	話しても意見が合わない(否定される)から話す話題がない 13.7%	話す話題がないから自分が忙しくて、話す機会がない 12.9%

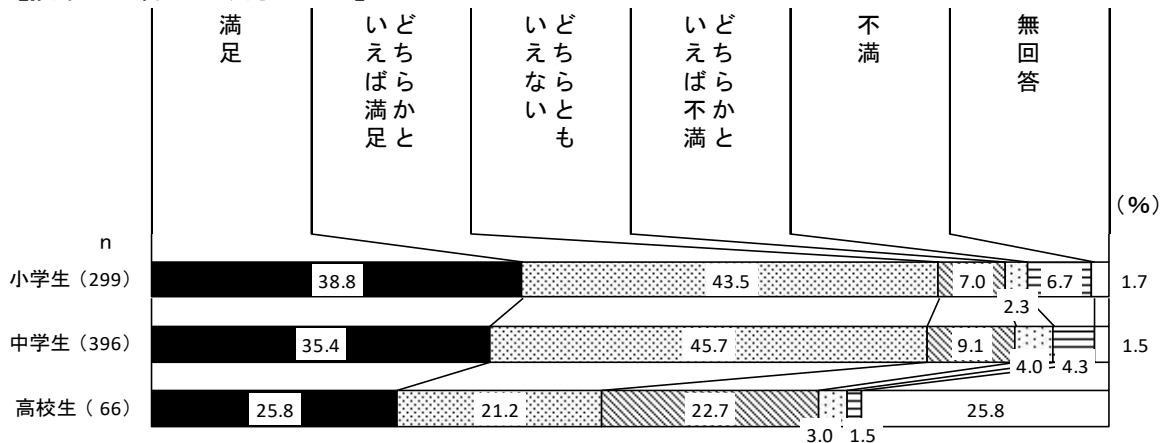
5 小・中・高校生活の満足度【報告書20、77、195～196ページ】

小学生から高校生までの青少年に学校生活の満足度について聞いたところ、「満足」と「どちらかといえど満足」を合わせた割合が最も高い項目は、小学生では『クラスメイトのこと』及び『部（クラブ）活動のこと』、中学生・高校生では『クラスメイトのこと』となっている。

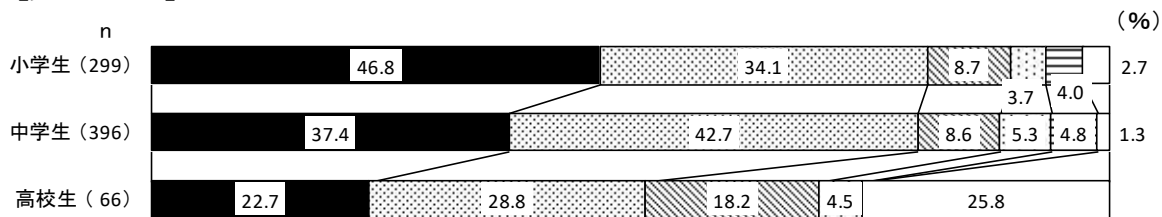
また、高校生では小学生・中学生に比べて、「どちらともいえない」の割合が高い傾向にある。

〈 図5 〉 小・中・高校生活の満足度

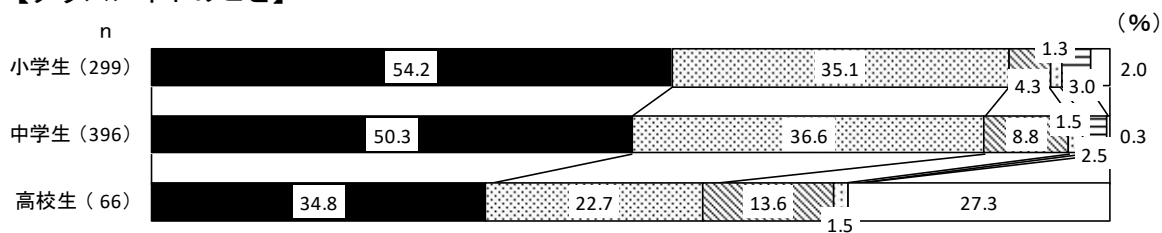
【授業の内容ややり方のこと】



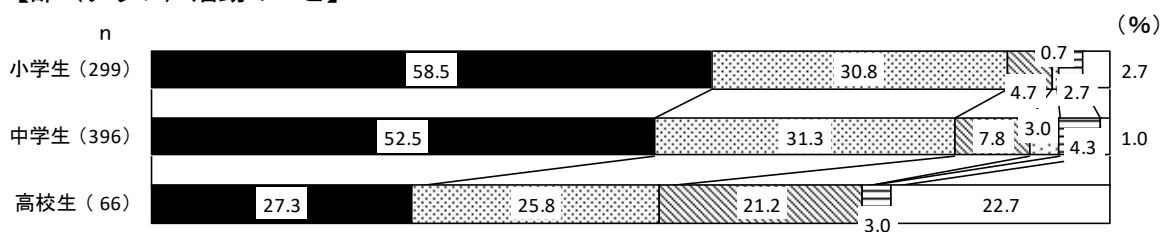
【先生のこと】



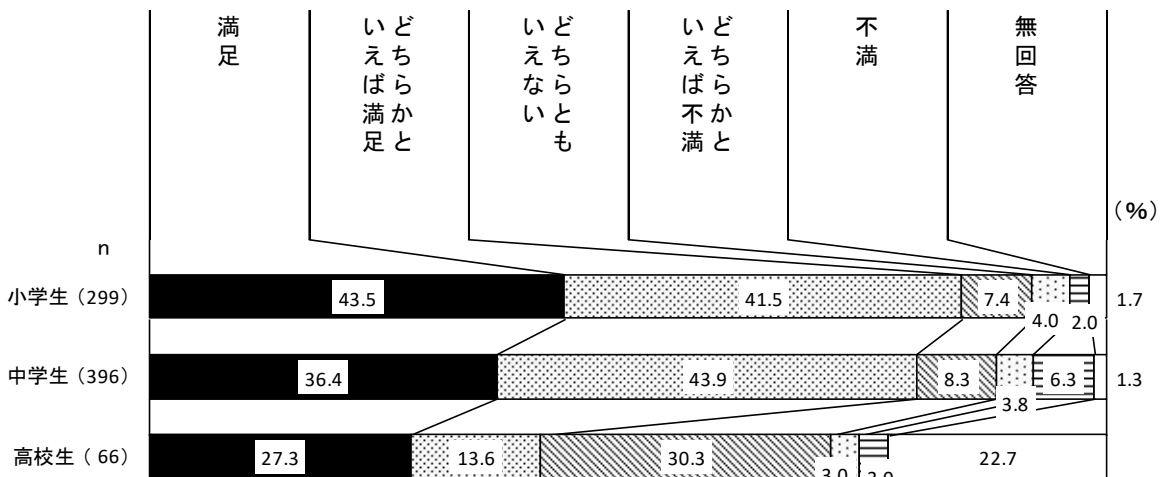
【クラスメイトのこと】



【部（クラブ）活動のこと】



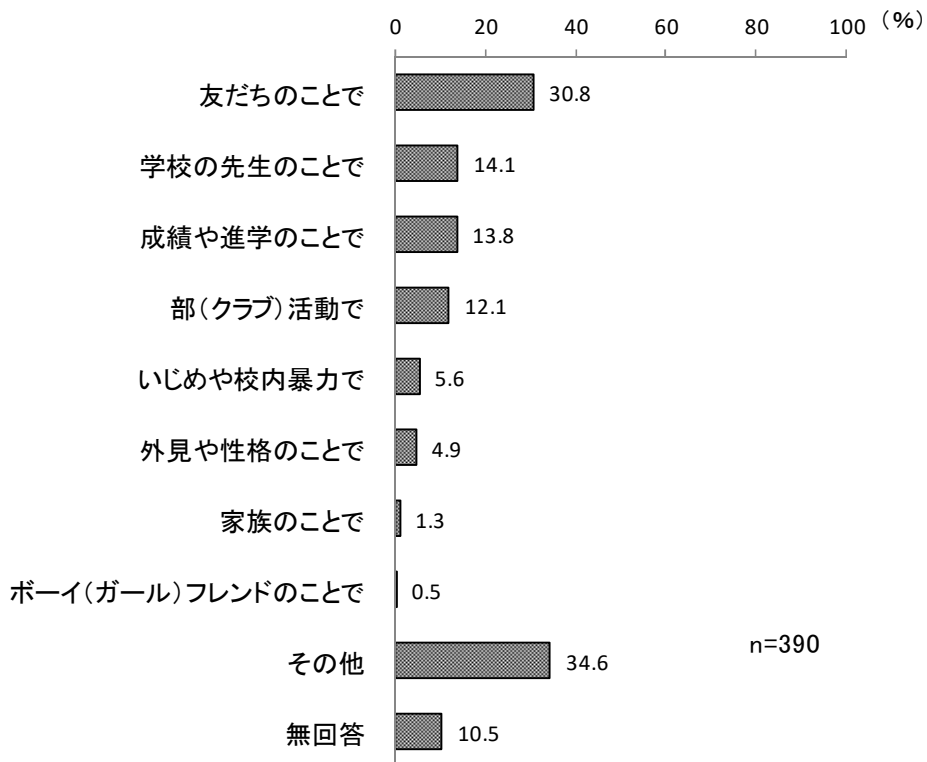
【学校生活の決まりのこと】



6 満10歳から14歳までの青少年の学校に行きたくないと思った理由
【報告書22～23ページ】

満10歳から14歳までの青少年に「学校に行きたくない」と思った理由について聞いたところ、「友だちのことで」が最も多く、「学校の先生のこと」、「成績や進学のこと」と続いている。

〈 図6 〉 満10歳から14歳までの青少年の学校に行きたくないと思った理由

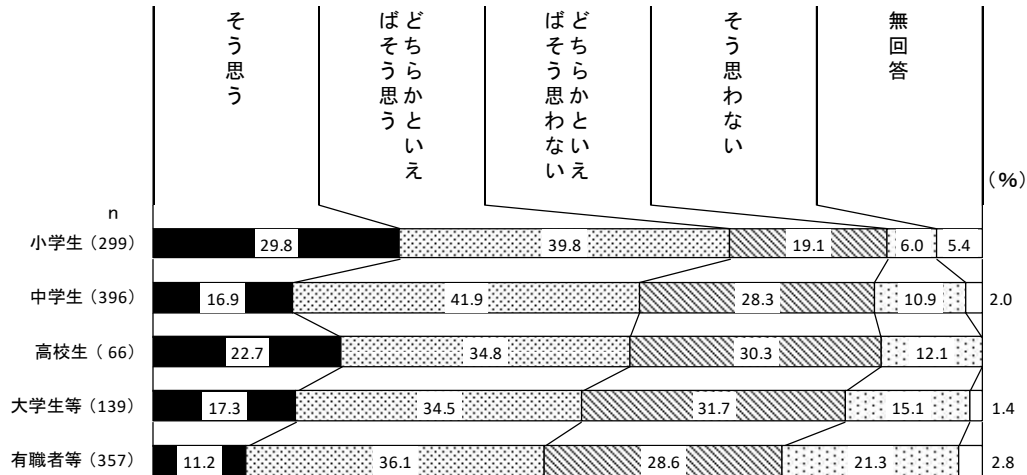


※その他の例：面倒だから、だるいから、朝起きられないからなど

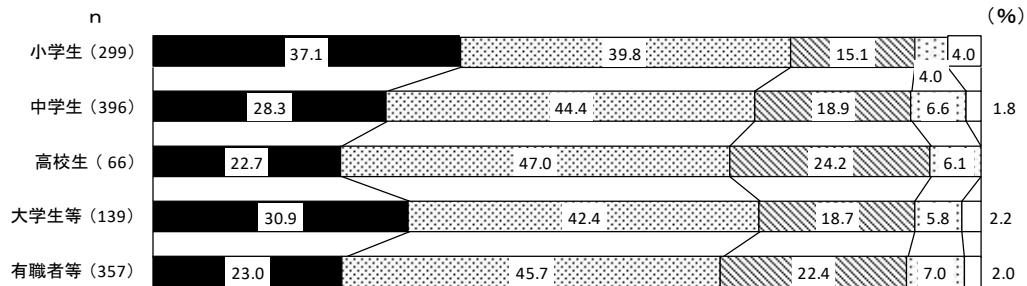
7 青少年の自分自身に対する感情【報告書29、81、197～198ページ】

青少年に自分自身に対してあてはまる感情について聞いたところ、「あてはまる」と答えた割合が最も高い項目は、どの年代においても『自分の親から愛されてきた（大切にされてきた）と思う』となっている。

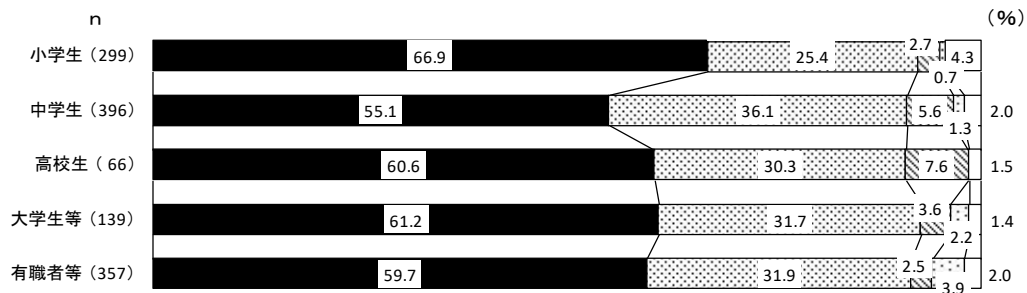
〈 図7 〉 青少年の自分自身に対する感情
【私は自分自身に満足している】



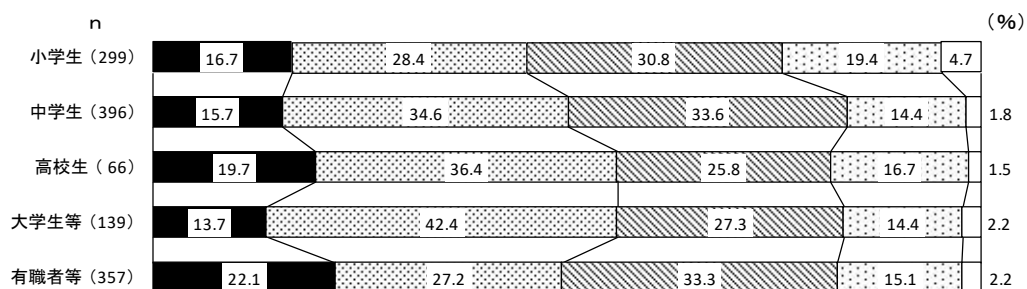
【自分には長所があると感じている】



【自分の親から愛されてきた（大切にされてきた）と思う】



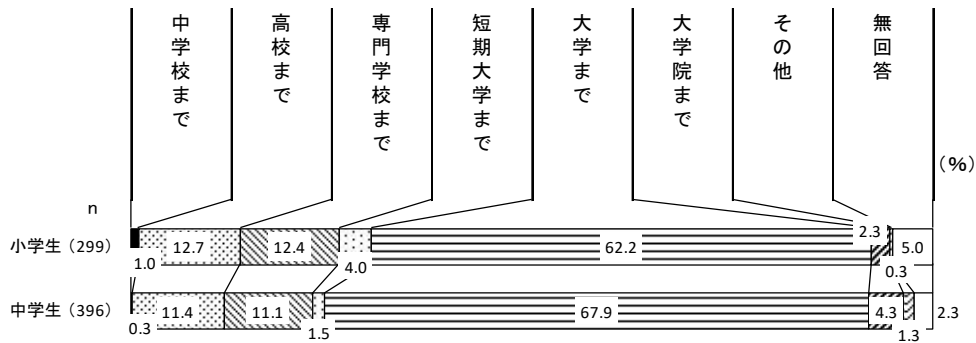
【時々、自分は役に立たないと強く感じることもある】



8 青少年の進学意向【報告書29、199ページ】

満10歳から14歳までの青少年に将来どの学校まで行きたいか聞いたところ、小学生・中学生ともに「大学まで」と答えた割合が、最も高くなっている。

〈 図8 〉 青少年の進学意向

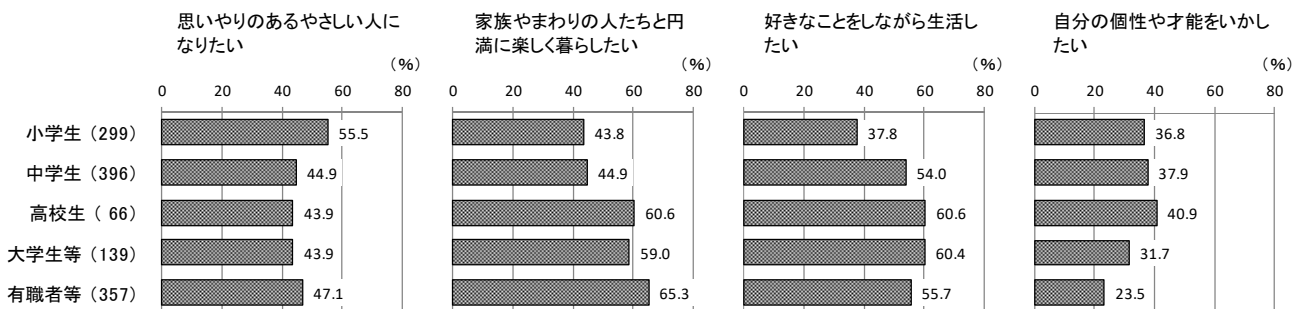


9 青少年の夢や生きがい【報告書30、82、200ページ】

青少年に夢や生きがいについて複数回答で聞いたところ、小学生では「思いやりのある優しい人になりたい」が、中学生では「好きなことをしながら生活したい」が最も多くなっている。

また、高校生では「家族やまわりの人たちと円満に楽しく暮らしたい」及び「好きなことをしながら生活したい」が、大学生等では「好きなことをしながら生活したい」が、有職者等では「家族やまわりの人たちと円満に暮らしたい」が最も多くなっている。

〈 図9 〉 青少年の夢や生きがい



※上位4項目

10 将来就きたい職業【報告書31～32、83～84、201ページ】

青少年に将来就きたい職業について聞いたところ、小学生・中学生では「画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど」が、高校生・大学生等では「会社員（営業など）」が最も多くなっている。

〈図10〉将来就きたい職業

調査年 順位	小学生(n = 299)		中学生(n = 396)	
	今回調査	平成23年調査	今回調査	平成23年調査
第1位	画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど	スポーツ選手	画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど	スポーツ選手
第2位	スポーツ選手	画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど	看護師、保育士など	画家、デザイナー、音楽家、作家、マンガ家、ゲームデザイナーなど
第3位	看護師、保育士など	看護師、保育士など	スポーツ選手	看護師、保育士など

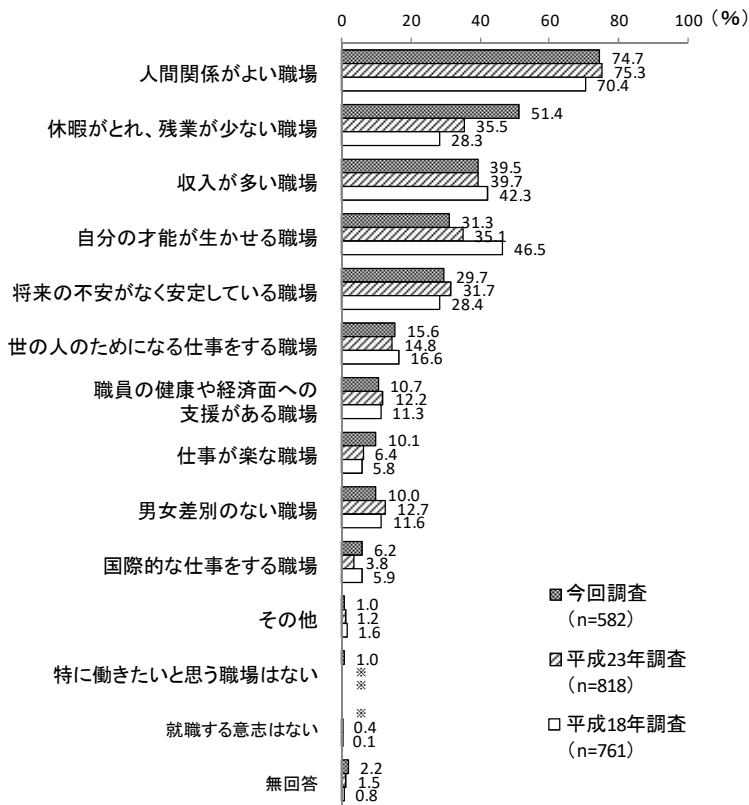
調査年 順位	高校生(n = 66)		大学生等(n = 139)	
	今回調査	平成23年調査	今回調査	平成23年調査
第1位	会社員（営業など）	看護師、保育士など	会社員（営業など）	会社員（営業など）
第2位	プログラマー、建築士、技術者、通訳など	教員（小・中・高等学校の教員）	公務員（一般事務など）	公務員（一般事務など）
第3位	公務員（一般事務など）／料理人、理容師、美容師など	プログラマー、建築士、技術者、通訳など	プログラマー、建築士、技術者、通訳など	プログラマー、建築士、技術者、通訳など

11 満15歳から30歳までの青少年の働きたい職場【報告書88～89ページ】

満15歳以上の青少年に働きたい職場について聞いたところ、「人間関係がよい職場」が最も多く、「休暇がとれ、残業が少ない職場」、「収入が多い職場」と続いている。

経年変化で見ると、「休暇がとれ、残業が少ない職場」は増加傾向がみられる。一方、「自分の才能が生かせる職場」は減少傾向がみられる。

〈図11〉満15歳から30歳までの青少年の働きたい職場



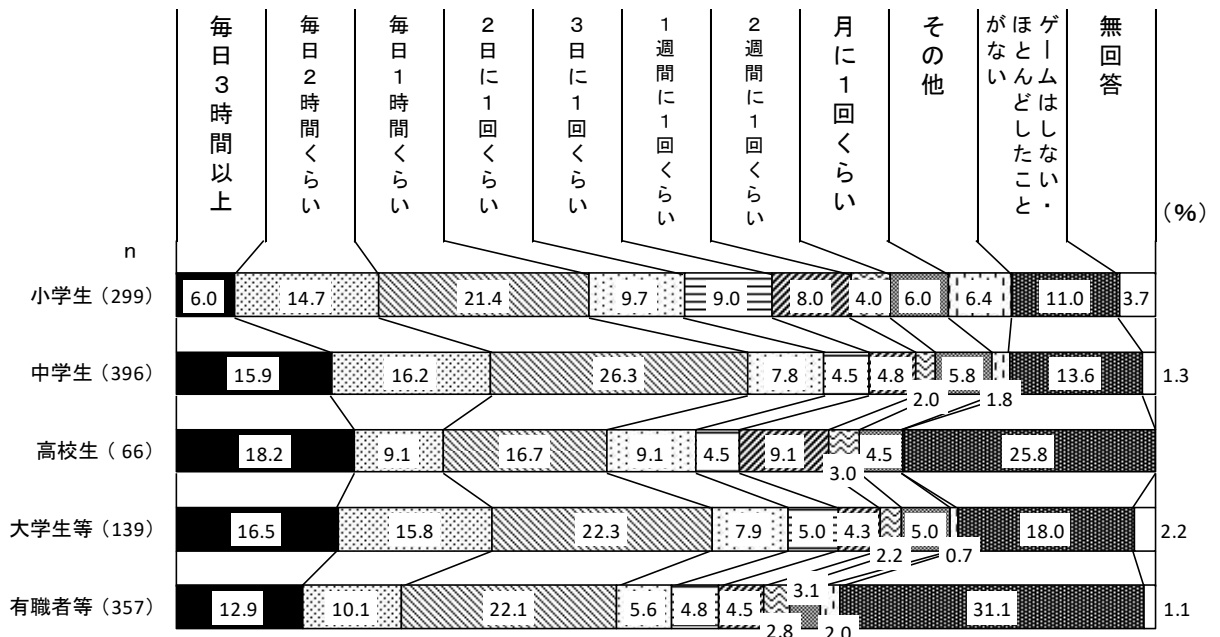
※調査をしていない項目

12 ゲームをする時間・頻度【報告書35、93、204ページ】

青少年にゲームをする時間・頻度について聞いたところ、小学生・中学生・大学生等では「毎日1時間くらい」が最も多くなっている。

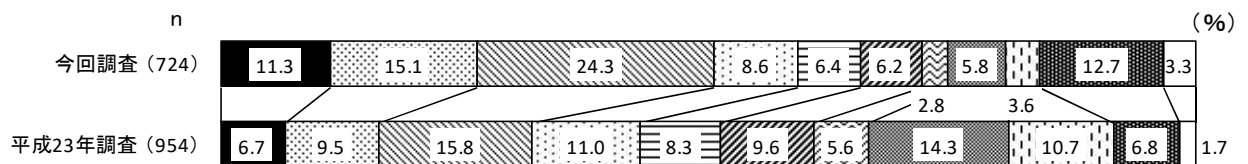
また、年代が上がるにつれて「ゲームはしない、ほとんどしたことがない」の割合が増える傾向にある一方で、毎日1時間以上ゲームをする割合はどの年代でも高くなっている。

〈 図12 〉 ゲームをする時間・頻度



〈 図12-2 〉 ゲームをする時間・頻度（経年変化）

ア 満10歳から14歳までの青少年



イ 満15歳から30歳までの青少年



13 休日の過ごし方【報告書37～38、95～96、206ページ】

青少年に休日の過ごし方について複数回答で聞いたところ、小学生・中学生では「テレビを見る」が、高校生では「インターネットを見る」が、大学生等では「友達と一緒に遊ぶ」が最も多くなっている。

〈 図13 〉 休日の過ごし方

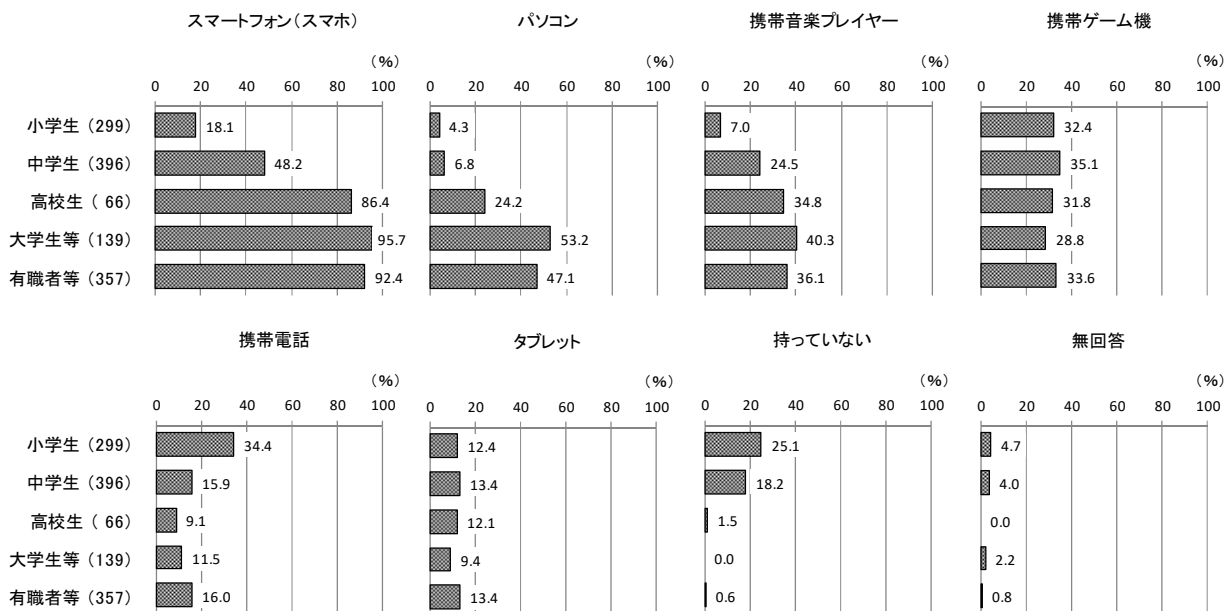
調査年 順位	小学生(n = 299)		中学生(n = 396)	
	今回調査 (%)	平成23年調査 (%)	今回調査 (%)	平成23年調査 (%)
第1位	テレビを見る (68.9)	テレビを見る (66.0)	テレビを見る (70.5)	友だちと遊ぶ (71.1)
第2位	ゲームをする (56.9)	友だちと遊ぶ (62.7)	友だちと遊ぶ (61.1)	テレビを見る (67.3)
第3位	友だちと遊ぶ (55.5)	家族と買い物をする (46.9)	部(クラブ)活動をする (56.3)	部(クラブ)活動をする (58.7)

調査年 順位	高校生(n = 66)		大学生等(n = 139)	
	今回調査 (%)	平成23年調査 (%)	今回調査 (%)	平成23年調査 (%)
第1位	インターネットを見る (62.1)	テレビを見る (64.8)	友達と一緒に遊ぶ (69.8)	友達と一緒に遊ぶ (69.8)
第2位	テレビを見る (57.6)	友達と一緒に遊ぶ (62.0)	インターネットを見る (68.3)	アルバイトをする (61.5)
第3位	友達と一緒に遊ぶ 勉強(予備校や学習塾以外)をする (47.0)	マンガや雑誌を見る 何もしないでのんびりする (50.7)	テレビを見る 何もしないでのんびりする (61.9)	テレビを見る (60.4)

14 インターネットに接続できる専用の保有【報告書46、98、209ページ】

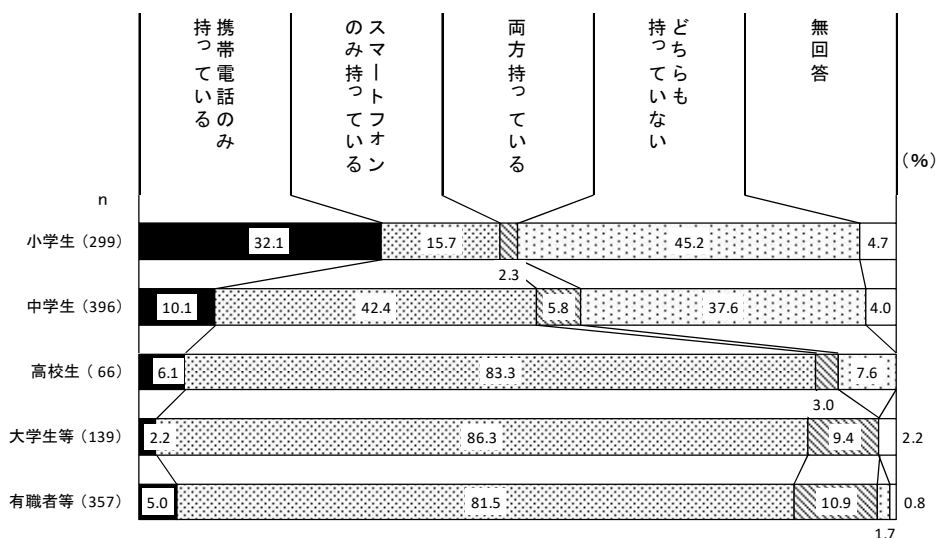
青少年にインターネットに接続できる自分専用の機器について複数回答で聞いたところ、小学生では「携帯電話」が、中学生以上では「スマートフォン」が最も多くなっている。

〈 図14 〉 インターネットに接続できる専用の保有



また、携帯電話・スマートフォンに限定してみると、「携帯電話のみ持っている」、「スマートフォンのみ持っている」、「両方持っている」の合計は、小学生では50.1%、中学生では58.3%、高校生以上では9割以上となっている。

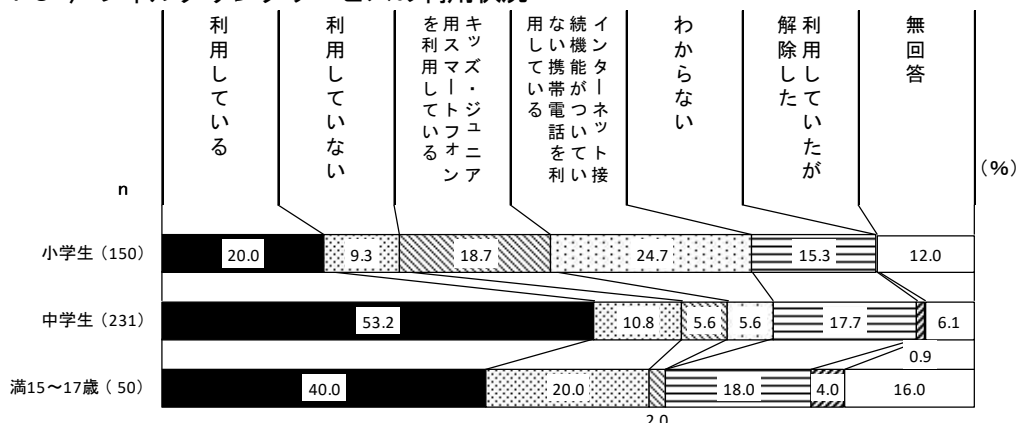
〈 図 1 4 - 2 〉 携帯電話・スマートフォンの保有状況



15 フィルタリングサービスの利用状況【報告書48、99、210ページ】

18歳未満の青少年に自分専用で使っている携帯電話等のフィルタリングサービスの利用状況について聞いたところ、小学生では「インターネット接続機能がついていない携帯電話を利用している」が、中学生と満15～17歳では「利用している」が最も多くなっている。

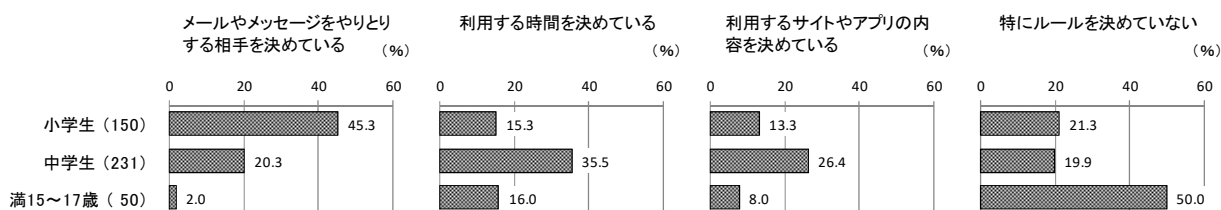
〈 図 1 5 〉 フィルタリングサービスの利用状況



16 携帯電話等の利用のルール【報告書49、100、210ページ】

18歳未満の青少年に自分専用で使っている携帯電話等の利用のルールについて複数回答で聞いたところ、小学生では「メールやメッセージをやりとりする相手を決めている」が、中学生では「利用する時間を決めている」が、満15～17歳では「特にルールを決めていない」が最も多くなっている。

〈 図 1 6 〉 携帯電話等の利用のルール

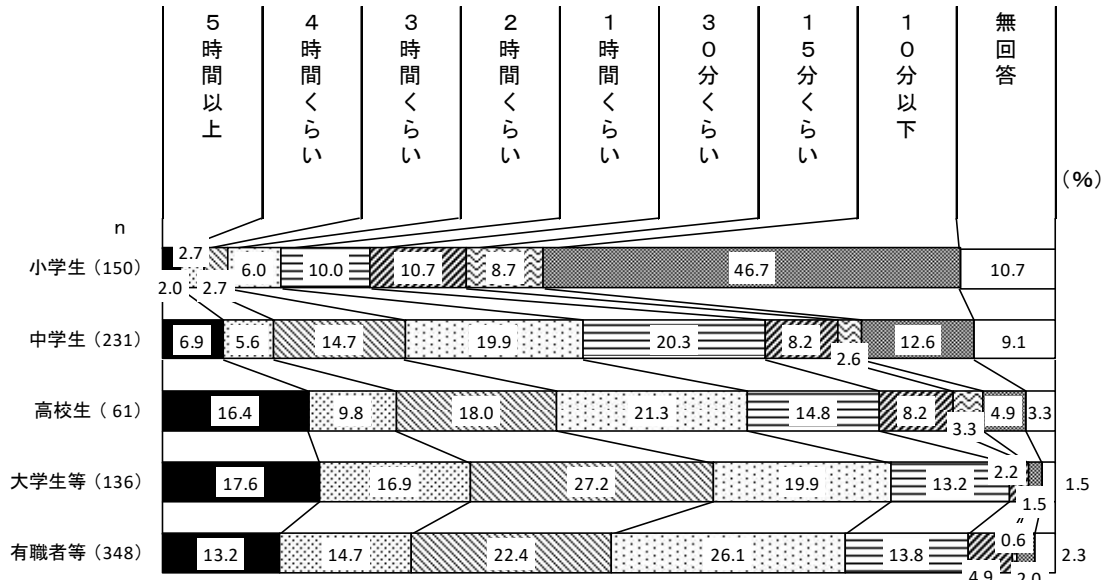


※上位4項目

17 携帯電話等を利用する時間【報告書50、101、211ページ】

青少年に自分専用で使っている携帯電話等の利用時間数について聞いたところ、小学生では「10分以下」が、中学生では「1時間くらい」が、高校生・有職者等では「2時間くらい」が、大学生等では「3時間くらい」が最も多くなっている。

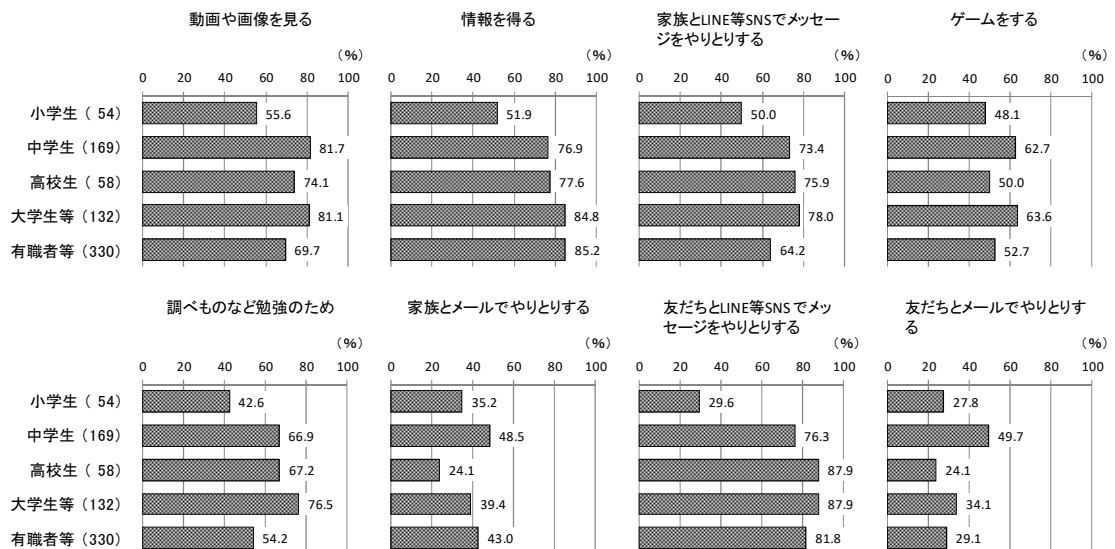
〈 図17 〉 携帯電話等を利用する時間



18 携帯電話等でインターネットを利用する目的【報告書51~52、102~103、212ページ】

青少年に自分専用で使っている携帯電話等でインターネットを利用する目的について複数回答で聞いたところ、小学生・中学生では「動画や画像を見る」が、高校生・大学生等では「友達とLINE等でSNSでメッセージやりとりする」が、有職者等では「情報を得る」が最も多くなっている。

〈 図18 〉 携帯電話等でインターネットを利用する目的



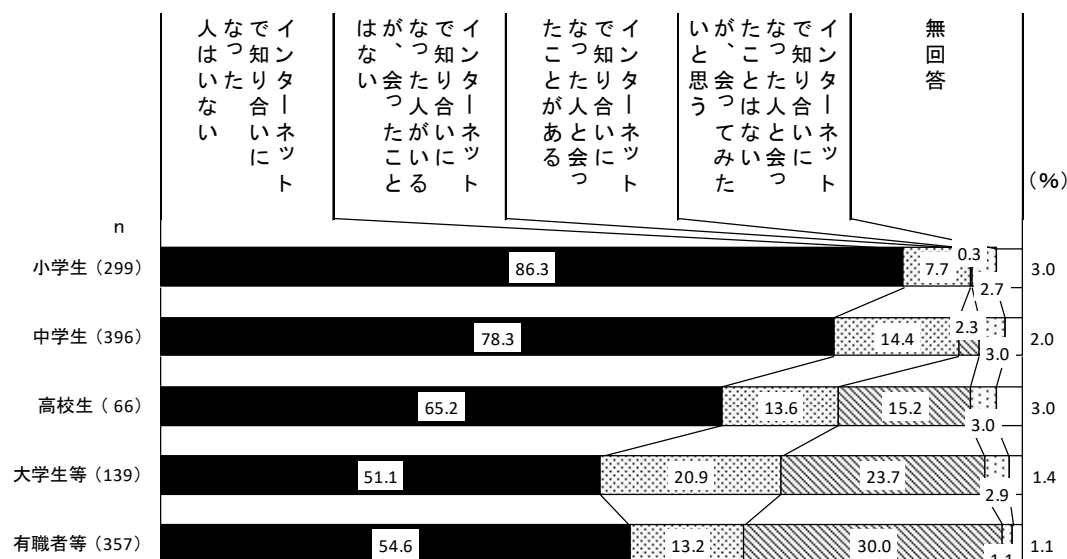
※上位8項目

19 インターネットでの知り合いの有無【報告書45、107、208ページ】

青少年にインターネットでの知り合いの有無について聞いたところ、どの年代でも「インターネットで知り合いになった人はいない」が最も多くなっている。

また、年代が上がるにつれて、「インターネットで知り合いになった人と会ったことがある」は増加傾向にある。

〈 図19 〉 インターネットでの知り合いの有無



20 悩みごとや心配ごと【報告書54、108、214ページ】

青少年に悩みごとや心配ごとの内容について複数回答で聞いたところ、小学生・中学生では「勉強や進学のこと」、高校生以上では「将来のこと」が最も多くなっている。

〈 図20 〉 悩みごとや心配ごと

	小学生(n = 299)	%	中学生(n = 396)	%
第1位	勉強や進学のこと	(41.5)	勉強や進学のこと	(62.4)
第2位	友人や仲間のこと	(16.4)	就職のこと	(22.0)
第3位	健康のこと	(15.7)	友人や仲間のこと	(18.2)
第4位	就職のこと	(15.1)	性格のこと	(15.2)
第5位	お金のこと	(13.7)	お金のこと	(14.9)

	高校生(n = 66)	%	大学生等(n = 139)	%	有職者等(n = 357)	%
第1位	将来のこと	(57.6)	将来のこと	(63.3)	将来のこと	(60.2)
第2位	勉強や進学のこと	(56.1)	就職のこと	(52.5)	仕事のこと	(54.3)
第3位	就職のこと	(27.3)	勉強や進学のこと	(33.8)	健康のこと	(30.3)
第4位	性格のこと	(18.2)	恋愛のこと	(23.7)	生活費のこと	(29.7)
第5位	仕事のこと 健康のこと	(15.2)	生活費のこと	(17.3)	恋愛のこと	(23.2)

21 悩みごとの相談相手【報告書55、109、215ページ】

青少年に悩みごとの相談相手について複数回答で聞いたところ、高校生では「学校の友達」が、高校生以外の年代では「母親」が最も多くなっている。

〈図21〉悩みごとの相談相手

	小学生(n = 299)	%	中学生(n = 396)	%
第1位	お母さん	(71.6)	お母さん	(62.4)
第2位	学校の友達	(46.2)	学校の友達	(60.9)
第3位	お父さん	(34.1)	お父さん	(30.3)
第4位	学校の先生	(19.4)	学校の先生	(15.7)
第5位	おじいさん、おばあさん、親類	(12.0)	きょうだい	(15.4)

	高校生(n = 66)	%	大学生等(n = 139)	%	有職者等(n = 357)	%
第1位	学校の友達	(45.5)	母親	(54.0)	母親	(57.7)
第2位	母親	(40.9)	学校の友達	(52.5)	学校時代の友達	(33.1)
第3位	父親	(30.3)	父親	(19.4)	父親	(25.8)
第4位	学校の先生	(13.6)	学校時代の友達	(17.3)	職場の同僚	(23.2)
第5位	学校時代の友達 近所の友達 学校の先輩	(7.6)	兄弟・姉妹 ボーイ(ガール)フレンド	(15.8)	兄弟・姉妹	(19.9)

22 埼玉県青少年健全育成条例で制限・禁止されている事項の認知度【報告書123、175ページ】

満15歳から30歳までの青少年と保護者に、埼玉県青少年健全育成条例で制限・禁止されている事項の認知度について聞いたところ、保護者の「深夜(午後11時～翌朝午前4時までの間)にカラオケボックス、まんが喫茶などに入ってはいけない」が最も多かった。

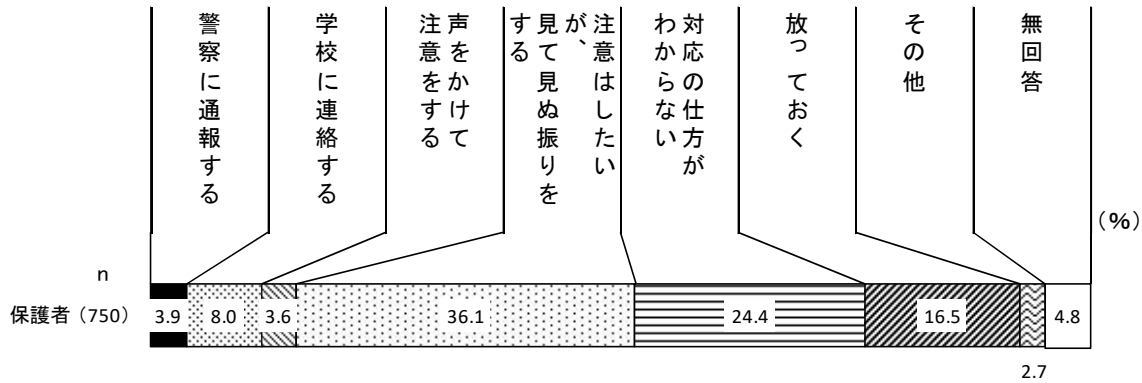
〈図22〉埼玉県青少年健全育成条例で制限・禁止されている事項の認知度(「知っている」割合)

	満15歳から30歳までの青少年	保護者
深夜(午後11時～翌朝午前4時までの間)にカラオケボックス、まんが喫茶などに入ってはいけないこと	78.4%	84.7%
インターネットを利用するに当たって、性的な情報、残虐性を助長する情報、犯罪や自殺を誘発する情報など有害な情報にアクセスし、見たり、書き込んだりしてはいけないこと	75.1%	80.4%
コンビニエンスストアなどで、成人向け雑誌などを買ったり、見たりしてはいけないこと	74.1%	72.9%
深夜(午後11時～翌朝午前4時までの間)に外出してはいけないこと	65.3%	67.3%
携帯電話、スマートフォンなどを利用する場合は、原則としてフィルタリングを設定しなければならないこと	45.4%	64.1%

23 素行の悪い未成年を見かけたときの対応【報告書173ページ】

保護者に、素行の悪い未成年を見かけたときの対応について聞いたところ、「注意はしたいが、見て見ぬ振りをする」が最も多く、「対応の仕方がわからない」、「放っておく」と続いている。

〈 図 2 3 〉 素行の悪い未成年を見かけたときの対応

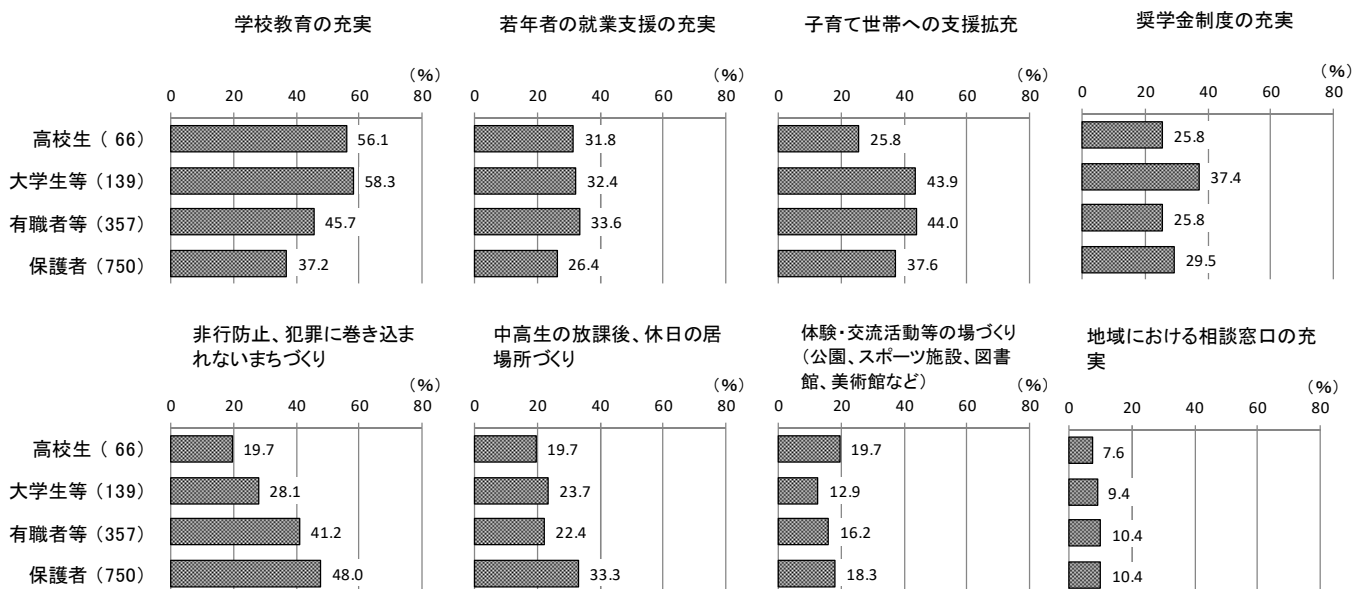


24 青少年の健全育成のために重点を置いてほしいもの【報告書125、184、224ページ】

シ

満15歳以上の青少年及び保護者に、青少年の健全育成のために重点を置いてほしいものについて複数回答で聞いたところ、青少年では『学校教育の充実』が、保護者では『非行防止、犯罪に巻き込まれないまちづくり』が最も高くなっている。

〈 図 2 4 〉 青少年の健全育成のために重点を置いてほしいもの



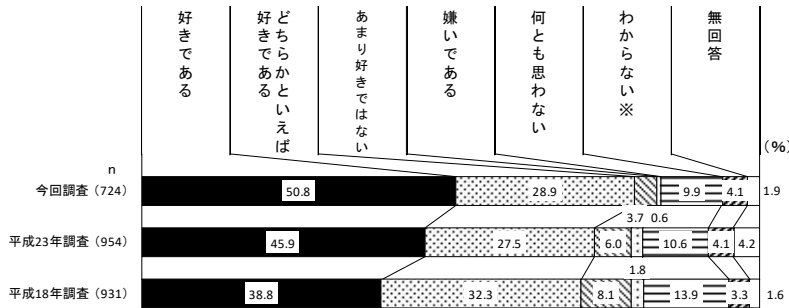
※上位8項目

25 地域への愛着度【報告書61、117ページ】

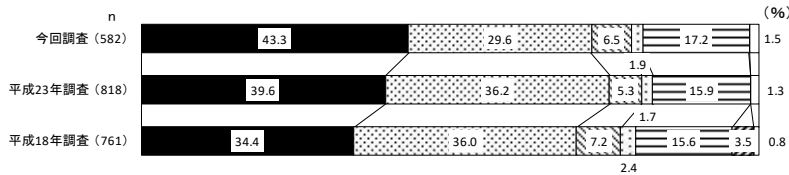
青少年に地域への愛着度について聞いたところ、「好きである」が最も多かった。経年変化で見ると「好きである」は増加傾向が見られる。

〈図25〉地域への愛着度

ア 満10歳から14歳までの青少年



イ 満15歳から30歳までの青少年 (※「わからない」は平成18年調査のみ)

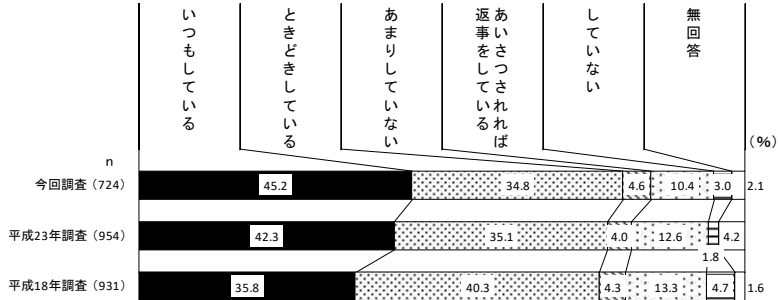


26 近所の人へのあいさつ【報告書61、118ページ】

青少年に近所の人へのあいさつについて聞いたところ、どの年代も「いつもしている」が最も多かった。経年変化で見ると、満10歳から14歳までは「いつもしている」は増加傾向が見られ、満15歳から30歳までには変化は見られなかった。

〈図26〉近所の人へのあいさつ

ア 満10歳から14歳までの青少年



イ 満15歳から30歳までの青少年



埼玉青少年の意識と行動調査 概要版 平成29年1月発行

- 発行 埼玉県民生活部青少年課
〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1
電話 048 (830) 2905 FAX 048 (830) 4754
- 実施 株式会社アストジェイ



埼玉県マスコット
「コバトン」 & 「さいたまっち」